

NEWS LETTER



NO.18 2004.5.30

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）
〒658 - 0003 神戸市東灘区本山北町 3 - 2 - 10

☎078 - 453 - 5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

にほんごひろば岡本

新 緑（しんりょく）の美しい街で2004年度の活動が始まった「にほんごひろば岡本」、この春もいくつかの「別れと出会い」がありました。

故郷ニューヨークへ新しい自分探しに帰ったグレッグさん（USA）、昨年は運営委員としていろいろな場面で活躍してくれました。キャリアアップめざして東京の会社に就職したマーティンさん（スウェーデン）、日本語能力試験2級合格までのがんばりやユーモアあふれるスピーチが心に残っています。明るい笑顔がチャームな渡辺ジーナさん（フィリピン）は外国人児童・生徒のための補助スタッフとして働くことになりました。子育てと勉強を両立させ見事1級合格を勝ち取った孫銀珠さん（韓国）は、母国で大いにその実力を発揮することでしょう。インターンシップを終えて帰国した金智秀さん（韓国）とフィリップさん（イギリス）はそれぞれの異文化交流体験をどのように生かしてくれるか楽しみです。上海へ帰った何燕さんは、女の子を出産後、来日し支援者と再会を喜び合ったそうです。

バーベキューパーティで献身的に働いてくれた金尚辰さん、金泳杜さん、金紀成さん、ジョークの巧みな元暎さん、おいしいチヂミをみんなにご馳走してくれた白熙廷さん、椅子取りゲームで優勝した李承姫さん（韓国）たちは短期留学を終えて帰国しました。今、彼らの後輩6人がひろばに韓国旋風を巻き起こしています。DVDで韓国映画を一緒に見たり、交換日記や雑誌を活用したりと、若者らしい交流風景が見られます。



チャンさんとラム君（11歳）のベトナム人母子、宮本美玲さん（中国系アメリカ人）と汀ちゃん（5歳）親子と竹内桜ちゃん（5歳）のほほえましい姿も加わって、土曜日は大賑わいです。

1年半ぶりにやってきたクリストフさん（リヒテンシュタイン）は美早子さんと結婚して、ますます日本語に意欲を燃やしています。メキシコ人男性スカンダルさん、インド人の主婦シーマさん、日系ブラジル人少年の荒木ユウイチ君、中国帰国者家族の青年沈運俊さんなど新しい学習者が参加して「にほんごひろば岡本」は元気いっぱい、笑顔があふれて、まさに「若葉の季節」といった感じです。

学習者と支援者の生き生きとした姿に励まされ、「気負わず、気長に、楽しく」の姿勢で、ひろばの活動を継続させることが何より大切だと気持ちを新たにしています。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

（西村佳子 にしむら よしこ）

とくべつきこう
＜特別寄稿＞

なに
「何もしなくても・・・」

佐古田三郎（さこだ さぶろう）

前回は佐古田幹子の追悼号を出していただき、ありがとうございました。

悲しくて暖かいレターでした。

私は何かを語れるほどボランティアに精通しているわけではなく、幹子の話を聞きながら彼女のボランティア観を固める良き相談相手であったにすぎません。しかし、病院ボランティアの方々とは何かの付き合いがあり、この二つのボランティアには大きな差があるということぐらいは気づいていました。

追悼号で、幹子のことについて書かれたことを整理すると、二つに分かれるように思います。一つは、熱心なボランティアの見本、もう一つは、“笑顔、愛、気さくに話しかける、座ってお菓子を頬張っている”などなどです。後者は、日本語ボランティアとは何の関係もありませんが、まとめると下田先生が言われたように“皆に安心感を与える”ということになるのでしょうか。そうすると、日本語支援ボランティアには、スキル（前者）と精神（後者）の両方が必要であり、幹子は両者を兼ね備えていたかもしれません。

病院では、スキルは病院従事者が行うべきものですので、病院ボランティアは“皆に安心感を与える”ということが主体になります。従って、病院ボランティアは何もしなくてもボランティアで、でしゃばりすぎると問題が起こることも考えられます。

にほんごひろば岡本で、お菓子を頬張り、“おはよう、こんにちは、お疲れさん、元気？”と皆さんに気軽に声をかけるのも立派なボランティアだと私は思います。支援者に無理に仕事を与える必要もなく、支援者も無理に仕事をする必要もないのです。個人は何もしないでいることができますが、会社のような団体になると社員に給料を払うために何かをしなければいけません。それが不必要な行動性や生産性を生み出し、社会から柔軟性を奪っていると思います。今の時代はこんな「暇」な人こそ貴重で、そういう存在が何となく暖かい、柔らかい空気を作るのではないのでしょうか。しかし、ボランティアで何もしないでいることは難しく、それでいて安心感を与えることができるというのはまさに理想のボランティア像ですね。

“何もせず 日々を過ごすは 難しく 携帯メールで時は忙（せわ）し”

“何食わぬ ポーカーフェイスで ボランティア 君が捧げた 最後の10年”

入院中、彼女は一切の見舞いを拒否していました。学生時代の親友にさえ会いたくないと言っていました。亡くなる1週間前にも会いたいという申し出をしてきた人物がいました。彼は、自分の人生に迷い、死ぬことも考えていたようです。その彼に宛てたメールの文章をそのまま記載します。“私は誰にも会いたいと思わないけど、苦しいあなたが私に会いたいと言ってくれるのは涙が出るほど嬉しい。しかし、酷なようですが会うかどうかはあなた自身で決断してください”。その返事を受けて、彼はやってきました。

彼は車椅子を押しながら、数時間に亘って彼女と話をしました。二人とも本当に楽しい時を過ごしていたようです。これ以後彼は毎日出勤するようになったそうです。

彼女が彼に生きる元気を与えたと彼の両親は言ってくれましたが真実はわかりません。しかし、とにかく良かったと私は思っています。彼が病んでいなければ、彼女は決して彼に会わなかったでしょう。これが彼女の最後のボランティアだったと気づいたのは少し経ってからでした。

“最後まで 皆を気遣い 君は逝った 思い出の中 優しさ残し”

こんな支援もしています。 ~ 交流・親善活動いろいろ ~

ひろばの活動内容の中に学習支援のほかに学習者と支援者の交流・親善活動があります。今回はいろいろな交流活動を紹介します。学習者はもちろん、支援者もとても楽しんでます。これからもどんどん紹介していきますので、皆さん写真とともに登場してくださいね。



その1 着物初体験

李さん（韓国出身）とムムさん（ミャンマー出身）が古瀬さんの手で美しい着物姿に変身しました。生まれてはじめて、着物を着て、二人ともとても嬉しそうでした。初めは、しり込みしていたのに、着付けが終わり写真を撮る頃になると「先生、私、きれいね！」と大喜びしている人もいましたよ。



その2 パッチワークに初挑戦

上記の二人が着物を脱いで、今度はパッチワークに挑戦です。市川さんの指導のもとで、一生懸命に作っています。李さんはかわいい息子のケベック君のためにスイミングスクール用のバッグを制作中です。学習支援の日も、材料店に出掛けるほど夢中だそうです。ムムさんはクッションに挑戦中です。



その3 お絵かきクラブ

竹内睦さんはご自身の子ども桜ちゃんと学習者宮本美玲さんの子ども汀ちゃんと毎週土曜日、絵本を読んだり折り紙やお絵かきなどをしながら仲良く学習していますよ。

その4 神戸観光



荒木ユウイチ君（ブラジル出身）がまだ神戸をよく知らないということで、お姉さん軍団（ユウイチくんの支援者の古川知津子さんと山下圭子さんと編集子）が4月30日神戸観光に出掛けました。

まず、メリケンパークから船に乗って、神戸港クルージングです。あいにく、明石海峡大橋は橋脚しか見えませんでした。やはり、男の子ですね、造船所の潜水艦のドックには目が釘付けでしたよ。船を降りて、神戸ハーバーランドではユウイチくんの案内？でブラジル料理店に行き昼食をとりました。お姉さんたちは

初めてのブラジル料理に大喜びでした。次に中華街に行きました。連休中だったせいか、ものすごいひとで、迷子になりそうでした。中国面の貯金箱を古川さんからプレゼントされ、貯金する決心したのかな？ さらに私たちは異人館をめざしました。観光客が去ったあとだったようで、ゆっくりできました。よくばって最後は六甲山まで観光しちゃいました。展望台では自分の家が見えたらしくおおはしゃぎでした。夕暮れになったせいか少し肌寒く、途中のカーブに酔ったみたいでユウイチ君少しお疲れのようでした。こんな具合で私たちの神戸ワンデー観光は無事終わりましたが、実は彼は、編集子が撮っていたデジカメに興味をもっていたようで、後日、大切な貯金をはたいてデジカメを買っていたのです。次の



学習のとき、古川さんから「衝動買い」を教えられていました。ユウイチくん、あの貯金箱を思い出してね！



突然ですが、ユウイチ君は5月12日、仕事のため長野に引越しました。神戸に戻ってきたら、必ず連絡しますと、笑顔で旅立っていきました。

がくしゅうしゃしょうかい
学習者紹介

やまさき
山崎ユウイチ君・ケルジさん（共にブラジル出身）

とっても可愛いブラジルからのカップル

皆さんもご存知の通り、2002年1月から2003年2月まで、「にほんごひろば岡本」は御影教室も開いていました。

そこでは六甲アイランドの食品会社で働く



日系ブラジル人の人たちが日本語を学んでいました。その中で私が担当し

たのが、ユウイチとケルジの素敵な若いカップルでした。

私は日葡辞書を片手に、彼らは眠い目を擦りながらの授業でした。

日本語の授業としてはお世辞にも充実したものではありませんでしたが、生徒と教師との間に思いやりを感じることでできた授業でした。

御影教室が閉校して随分経つのですが、3月にケルジから「私、1週間後、ブラジルに帰るね。ユウイチも5月に帰る。会いたいね」と電話がありました。

数日後、焼肉屋でお腹いっぱいになった後、3人で六甲山から神戸の夜景を見ようということになりました。ユウイチとケルジは神戸の夜景を見るのは初めてでした。

私はタバコを吸ってくると言って15分間の二人の時間を作りました。

私が「チューした？」と聞くとケルジの顔は真っ赤になりました。

二人はどういう気持ちで夜景を見ていたのか気になりましたが、最後に二人が「今度、子供2、

3人連れてくるね」と言ってくれたのです。

「楽しみに待ってるよ ユウイチ、ケルジ！」

（濱田芳孝 はまだ よしたか）



みんなのひろば

昨年さくねんのクリスマス会かいのときときに行おこなわれた学習者がくしゅうしゃによるスピーチ大会たいかいでみごと1位の栄冠えいかんに輝かがやいた林君りんくんの原稿げんこうを紹介しょうかいします。



日本にほんに来て2年半まねはん

林 恒焯りん こうえん ちゅうごくしゅうしん（中国出身）

皆さんこんにちは 林ともうします。今この近くの芦屋南高校あしやみなみこうこうに通かよってる17歳じゅうななさいの高校生こうこうせいです。日本にほんに来てからもう2年半ねはんになりました。この間は楽しいことや辛いことがいっぱいありました。今日はこれについてお話ししたいと思います。宜しくお願いします。

日本にほんに来て二日後 家の近くちかくにある中国人ちゅうごくじんの学校がっこうにはいりました。だけど中国ちゅうごくからきた僕ぼくにとって日本にほんで育てている先生せんせいの言いってることはあまり理解りかいできませんでした。中国語ちゅうごくごでの説明せつめいも最初の頃さいしょのころは分からなくて困こまりました。2、3カ月げつして耳みみが慣なれたのが理解りかいすこしずつできるようになって来きました。日本語にほんごでの説明せつめいもだんだん分かるようになってきました。

高校こうこうに入はいってからまわりの人ひとは全部ぜんぶ日本人にほんじんです。最初さいしょ話はなす時ときかなり緊張きんちょうしました。自分じぶんの言いっ

てる日本語があっているかどうか 発音が正しいかなど ずっと心配しました。

それから頑張って自己紹介をきっかけに話し始め しばらくするとお互いに打ち解けました。楽しかったです。同時に日本語をうまく話せるためにいろんな日本語教室に通って来ました。いろんな自分と違う国の人と接していっぱい外国の文化や知識を教えてもらったのです。

そのときから 日本語がうまく話せるかどうか重要でなく 自分の気持ちをみんなに伝えるのが大切だと思いました。

高校で一番辛いのは部活をやめたことです。バトミントンが好きだから部活に入りました。8カ月くらい頑張りました。でもどうしても先輩達と合わせなかったので部活をやめました。先輩が僕のことをもうすこし気づかってくれば良かったと思う面もありますが、ゆっくり考えてみると僕がもうすこし先輩のいおうとすることを理解していれば好きなバトミントンをつづけられたのではないかと反省もし残念であります。

人とのコミュニケーションは大事なことと思えます。前の期末テストを復習するために中禮先生と一緒に『山月記』っていう文章を勉強しました。文章の中に李徴という人がいました。すごく才能がある李徴は尊大な自尊心と臆病な羞恥心を持って人とのまじわりがあまりうまくできなくて最後は虎になってしまいました。そんな李徴にとっては死ぬよりつらいのではないのでしょうか。文章を読んだ後 僕はとても李徴の運命に同情しました。そのときから人とのコミュニケーションは人間として生きてる象徴と思えます。

このような経験をこのさきの生活の中にかかしていきたくともっています。

話は以上です。ありがとうございました。

今年も松蔭女子学院大学の学生ボランティア 3人がひろばから巣立っていきます。下田先生から「贈ることば」をいただきました。

もうひとつの卒業証書

今年も卒業生を送り出す時期になりました。神戸松蔭の3人の学生さん(写真左から増田綾子さん、林真衣子さん、馬場あさみさん)も、もうひとつの学校・・・「ひろば」を巣立っていきます。それぞれ期待と不安と夢を胸に。3人を育ててくださった方々に心からお礼申し上げます。



林さんの学習者だったカナダ人のシェインさん、アメリカ人のグレッグさん、韓国人の元さん、ベトナム人のダンさん、馬場さんの学習者、韓国人の金紀成さん、増田さんの学習者、金智秀さん、初心者の増田さんに先輩支援者として本当に温かく、快く手を差し伸べてくださったお助け隊の佐古田幹子さん、そしてコーディネーターの西村さんはじめ「ひろば」の皆さん。

それぞれ期間は違っても3人は皆さんに支えられて日本語支援のボランティアを最後までやりとげることができました。「持続は力なり」といいます。林さん、馬場さん、増田さんにはこの言葉を添えてもうひとつの卒業証書を贈ります。「ひろば」を支えてくれてありがとう。

(下田美津子 しもだ みつこ)

ジーナさん また遊びにきてくださいね

2001年3月から楽しく学習やスピーチコンテストなどで活躍してくれたジーナさん(フィリピン出身)



がひろばを卒業します。ジーナさん、またいつでもひろばに遊びに来てくださいね。

しえんしゃしょうかい 支援者紹介

やのひろみ
矢野博巳さん

ちが いた い かた さがして
違った生き方を探して

わたしは、この5月で68歳になりました。61歳までは金融機関に勤務して日本の各地を10回以上転勤して最後の勤務地が大阪となり住まいが西宮の香炉園でしたので、そのまま、定年後この地兵庫県に住みついてしまいました。震災で家が崩壊して宝塚に転居しました。

現役の時は、まったくの会社人間で一日の大部分の時間を仕事につぎ込んでいました。しかし、退職後は違った生き方を探したいと、新しくスタートした兵庫県の阪神シニアカレッジ国際交流学科の第一期生に入学したわけです。家族も私が一日中家に居るのは少々迷惑とと思っていたらしく、この事を喜んでいました。

4年間の在学中に英会話グループを作りスコットランドの先生をお願いして、まったく上達しませんがいまでも継続しています。先生に連れられてスコットランドへ旅行もしました。

さらに日本語学習クラブもやり始めて、四本さんに時々参加してアドバイスを頂くようになって

たのが縁で、このにほんごひろば岡本に参加させて頂きました。そして1年半前に中国出身の好青年 オウウさんを紹介されて学習の手伝いがスタートしました。



ター
ト
し
ま
し
た。
らいにち
来日
して
わず
か2
年
余

りで日本語が大変上手なものには驚きました。現在は助詞（上級）と擬音語の学習に挑戦中で、もっと豊かな表現力を身に付けたいと頑張っています。

彼のお陰で私自身もあらためて日本語を見直し、正しい使い方について勉強しています。私が彼に感謝しなければなりません。

彼の日本語がどんどん上達してくれるのを願うと同時に、これからの彼の人生の中に、この岡本で学んだ一時期が本当に楽しい思い出として心に残り、日本人の良き理解者のひとりとして日中の架け橋になって欲しいと期待しています。一度は彼の出身地天津に出かけてみたいと思っています。

<第5回総会の報告>

皆様のご協力、ご支援のおかげでひろばも6年目を迎えることができました。2004年度の総会が5月1日に開催されました。

詳しくは報告書を別途作成します。

今年度2004年の活動内容を下田先生に簡単に説明していただきました。

2004年度日本語教育ワークショップ&支援者交流会

昨年度日本語教育ワークショップはその内容をより幅広く、よりきめ細かなものにするために大幅に改革しました。本年度もその路線を継承しつつ、新たな試みをしていきたいと思っています。

昨年度の改革で支援者のためのプログラムが多彩になり、それぞれのニーズにあったきめ細かな対応



が出来るようになりました。ボランティアが初めてで不安な方の背中を優しく押すための初心者お助け隊、ちょっとマンネリ化している日ごろの日本語支援の内容を見直したり、もうちょっと教授法の技術をみがいたりするためのお手伝いをするステップアップ講座は今年も強力なスタッフで推し進めます。支援者のためのプログラムが充実した分、ワークショップと支援者交流会をさらに大胆に改革したいと思っています。改革の一番の狙いはこれまでのような支援者だけのワークショップではなく、支援者と学習者がともに参加できるワークショップに変えることです。

「ひろば」は発足の当初から1対1の支援活動が基本です。ボランティアの日本語教室で1対1の日本語支援を続けることができたのは、支援者に恵まれてきたことと、学習者と支援者の数がバランスよくほぼ同数だということ、そして両者をうまく組み合わせることのできるコーディネーターの力量のあったからこそです。そのことは本当に幸運なことですが、1対1の支援活動では満たされないことがひとつあります。それは1年に数回の行事のほかに水曜日、土曜日の日常の支援活動のなかで学習者同士の交流、支援者同士の交流、学習者が他の支援者と交流する機会があまりないということです。

そこで今年は初めての試みとして、従来のワークショップを支援者と学習者のためのワークショップに変えてみたいと思います。その第1回目は支援者と学習者の両方を対象にした「発音クリニック」です。韓国の学生さんたちがどうして「監獄（韓国のつもり）から来ました」と言ってしまうのか、学習者も支援者もともに楽しく発音の仕組みを学び体験するワークショップです。

第2回目はひろばオープンハウスとして七夕の行事をおこないます。これは「言葉」は国境を越えられないが、「仕掛け」は国境を越える>という、わたしが長い間気になっているフレーズの体験学習です。日本語を一方的に教える習うといういつもの関係ではなく、ともに作業することでいつのまにか日本語のことなど忘れてしまう…つまり言葉の壁を乗り越えていることに気がつく…というワークショップの試みです。笹の葉や短冊といった「仕掛け」がどんな効果をもたらすか、ぜひ皆さんとともに体験したいと思います。

今年も皆さんのご協力を得ながらより良いワークショップにしていくつもりです。たくさんの方が参加してくださることを願っています。
(下田美津子 しもだ みつこ)

お知らせ

第13回ワークショップ

日時：6月12日（土曜日）午後1時30分～3時30分

場所：にほんごひろば岡本

講師：山縣千枝先生

皆さんからリクエストの多かった発音に関するワークショップです。特に今回は学習者にも協力いただき、実習も行なわれます。たくさんの方の参加をお待ちしています。

七夕会への誘い

今年はお天気にめぐまれず、「お花見」ができませんでしたね。そこで、日本の行事でとてもロマンチックな「七夕」をみなさんと楽しもうと思います。日時は7月3日午後1時を予定しています。詳しくは、ひろばに掲示しますので、楽しみにしてください。ご家族やお友達を誘ってきてくださいね。



編集後記（へんしゅうこうき） みなさん、もうお気づきですか？ 今号からなんと総ルビ（漢字にすべてふりがなをふりました）です。学習者も支援者もみんなが読んでくれば、すごくうれしいです。（I・M）